

大分大学派遣留学生支援制度（短期研修型）実施報告 （消化器・小児外科学講座）

医学科 4 年次の研究室配属の一環として、アメリカのニューヨークにある Weill Cornell Medicine, Department of Colorectal Surgery に 4 年生 2 名が平成 31 年 4 月 8 日から令和元年 5 月 8 日の 1 ヶ月間短期留学しました。

この留学は大分大学派遣留学支援制度(短期研修型)に採択され、実施されました。

医学科 4 年次生 西元裕也さんの感想

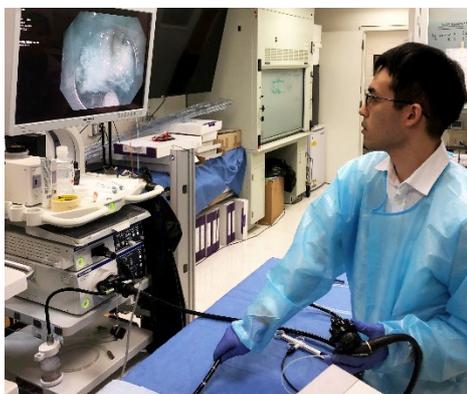
Weill Cornell Medicine はマンハッタンの upper east side という高級住宅地にあり、大学病院の New York Presbyterian Hospital、隣接する Memorial Sloan-Kettering Cancer Center と医療機関・研究施設が集まる場所にあります。またセントラルパークにも近くとても良い環境の中にあります。その様な恵まれた環境の中で研究を行いました。

研究内容は、我々のチームが新規に開発した内視鏡トレーニング用の腹部解剖モデルの有用性の検討を行いました。学生自らが ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）術者になり内視鏡トレーニングを行いました。はじめは内視鏡の操作もままならず、病変部を画面に映し出すことすら困難な状況でありましたが、トレーニングを繰り返す中で最終的にとても良いラーニングカーブを描くことができ、モデルの有用性を示すことができる良いデータを得ることができました。今後臨床応用が期待されるモデルであり、そのようなモデル開発の一部に少しでも関わることができてとても良い経験になりました。

また、実験以外にも毎週火曜日には Dr. Jeffrey Milsom の手術を見学することができました。毎週木曜日はラボミーティングがあり、各々の研究の進捗を共有する場がありました。ニューヨークには世界中から研究者や医師が集まってきており、人種・国籍・社会的背景の違う研究者や医師と英語で議論することができ、視野を広げるとともに自分や母国を見つめ直す良い機会になりました。

令和元年 6 月 27 日に行われた研究室配属発表会では、Weill Cornell Medicine で行なった研究の成果と留学の内容を学内で広く共有することができました。

この研究室配属では、国内・国外で研究を通してこれまでの座学とは違う形で様々なことを学ぶことができました。今回得た経験を糧に、今後も幅広い視野を持って学び、日本そして世界の医学及び医療の発展に貢献していきたいと思えます。この様な貴重な機会を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。



ラボでの実験の様子



Dr. Jeffrey Milsom と学生

医学科 4 年次生 猪股祐也さんの感想

今回、研究室配属でアメリカ、ニューヨーク州にあるコーネル大学で学ぶ機会を得ることができました。私はこれまでアメリカに足を踏み入れたことは一度もなく、ドラマや映画でしかその景色を見たことがなかったため、大きな期待を抱きながら今回の研究室配属に臨みました。ニューヨークに到着するとそびえ立つ無数のビルや、人の多さ、そして初対面でもフレンドリーに接してくれる現地の人々には想像以上に驚かされました。ニューヨークで起きた出来事はそのどれもが刺激的でこの1ヶ月間は本当に充実した毎日を送ることができたと思います。

コーネル大学の研究では、様々な国の研究員とディスカッションをしたり、発表をする場を設けていただきましたが、そこで初めて先生方が普段行っている研究がどれだけ厳密に行われており、大変であるかを身にしました。医学に関しても研究を通してたくさん学ぶことができましたが、それ以上に色々な人種の人々と関わることで自分の世界観を広げることが出来たことが最も貴重な経験だったと思います。

最後に今回このような機会を設けていただいた大分大学消化器・小児外科講座の先生方、現地でずっと面倒を見てくださった河野先生、コーネル大学のミルソン先生、その他、今回のアメリカの研究室配属でお世話になった方々に心から感謝申し上げます。この研究室配属で得た知識や経験は今後の人生の糧にし、これからも頑張っていきたいと思います。



ラボでの実験の様子